



した登別と苫小牧の間の町。古くは、シャタ
イ(浜側の林の川)、シラオイ(蛇の多い
処)、シキウ(鬼茅多い)、メップ(湧泉池)、ア
ヨロ(矢とくに群在する)のコタン(村)から
なり、近くには同名の川が流れ、それらの川の
支流にもアイヌ語名が残されています。白老
川の水源近くのクスリサンベツ(葉下す川)、
フレシラオイ(赤い白老川)や戦いで矢を射
合ったといつウツウカンベツ(互い射る、川)な
ど、言い伝えや特徴のある川名がたぐりあ



村木美幸
(アイヌ民族文化財団
常勤理事)

語地名を紹介します。
白老は太平洋岸に面

Vol.90
今月のテーマ
アイヌ語地名散歩(二)
—白老編—

なるとみゆき。
なるほどアイヌ文化エッセイ
ソノコ de ソノコ
アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



倶多楽湖(クッタラ ウシ ト)

イラスト/ 荘田悠人

白老、プーベツ(食糧庫川)、ウヨロの川尻
は一つになって海へ流れ、どの川にも秋にはサ
ケが上ります。中でもウヨロはサケの遡上が
多く、自然の産卵床が川のあちこちに見られ
ます。プーベツの横にはフ(食糧庫)の屋根に
似ている三角山のプーサパ(フ頭)もあり自
然の食糧庫ともいえる豊かな場所です。
白老の西側アヨロ海岸帯はアイヌ語地名
の宝庫。国造りのカムイ(神)が鯨を串にさし
て焼いていたら、突然、串が折れたので驚いて
尻もちをついたといつオソロツ(尻跡)、海
中にはイマニツ(焼き串)といつ岩も。その断
崖の高台には、カムイエカシチャシ(神翁の
砦)といつ砦跡、その西方のなだらかな丘を



次回のテーマは「アハ(ヤブマメとダム」
本田優子(札幌大学教授)
が担当します。

カムイミンタラ(神の庭と呼び、月夜の晩に
は神々が下りて舞い遊ぶ)という言い伝えも。
湖沼で一番大きな倶多楽湖は、クッタラウシ
ト(オオイタドリ群生する湖)が語源。約八
万年前の火山活動でできた円形のカルデラ
湖で、摩周湖に次ぐ透明度は水深10メートル
ルまで見通せるといわれています。私もボートで
周したことがあります。本当に碧く澄んで
いて美しかったです。イタドリは漢字で「虎
杖」と書くって知ってました? 一説には、根は
虎が杖にしても折れないほど強いので、この漢
字があてられたとも。倶多楽湖の海側の地
名の虎杖浜はアイヌ語の日本語訳の漢字を
あてた地名。ひねりがあって面白いですよ
ね。その他にも白老にはアイヌ語地名がたく
さんありますが今回はここまでとしますね。
現在、北海道博物館で「アイヌ語地名と
北海道展」が開催されています。伊能忠敬
などが残した国宝の古地図など貴重な資
料から、北海道の土地の成り立ちが分かる
展示になっているので必見ですよ。

■ 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■ 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■ 荘田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。